

ハッシュタグから社会運動へ：

運動者の感情による中国#MeToo 運動展開の分析

YANG Yushuang

2017 年 10 月、米国の映画プロデューサーであるハーヴェイ・ワインスタインのセクシャル・ハラスメントや性的虐待行為が新聞報道などによって明るみになった。それをきっかけに、ツイッターから端を発した #MeToo 運動と呼ばれる性被害・性暴力に対する抗議活動が世界規模で広がった。2018 年 1 月、中国の#MeToo 運動は大学をはじめ、NGO、宗教、メディア、経済・政治 などの領域でも起こった。SNS で#MeToo 運動に関する投稿が続いていた以外、さまざまな活動が各アクターにより行われ、運動全体が拡大していった。しかし、運動拡大とともに、検閲がだんだんと本格になり運動者が行政側と警察側に圧力を受けつつあった。また、SNS におけるそれらの性被害者に関する論争とアンタゴニズムが絶えず勃発していた。結果として、中国#MeToo 運動が盛り下がってしまい、最初に形成された連帯が崩壊するに至った。

なぜ中国#MeToo 運動は大規模な社会動員に成功したにもかかわらず、結果として運動が衰退し、運動の連帯が崩壊するに至ったのか。その原因を説明するために、本研究では「社会運動における感情」と「SNS を通じた感情形成」に焦点を当てる。近年の社会運動における感情研究は古典的な集合行動論が依拠した「不安」「不満」といった心理的要因以外の運動生起の起点を提示するだけでなく、抗議サイクル全体について新しい説明を加えることができると考えられる。しかし、従来の社会運動における感情研究がオンラインの社会運動に関する研究はまだ十分とは言えない。また、SNS は近年の社会運動において、情報の交換や伝達に限らず、新しい組織方法が展開するアリーナ、さらに直接民主主義を実践する空間となっている。しかし、SNS では複雑アーキテクチャとルールが存在しており、こういった構造を有する空間における感情流通のメカニズムは一般社会におけるものと異なるであろうと考えられる。したがって、現在の社会運動が行われるこの新しい情報環境を踏まえ、SNS での感情流通のメカニズムは SNS で展開される社会運動にどのような影響を及ぼすかを考察することは必要になる。そこで、本研究は①社会運動における感情研究と②現代デジタルメディア社会における SNS を通じた感情流通を分析枠組みとして、研究を行う。

本研究は、運動者はどのような感情を経験して運動に関与し、それらの感情が運動の中でどう相互作用して、運動の展開さらに連帯の崩壊に影響を及ぼしたのかを明らかにする。調査内容は①当事者の告発文章、②告発者と運動支持者のウェブサイト・SNS投稿、③中国#MeToo運動関連の新聞記事によって構成される。これらのデータに関しては質的と量的な内容分析を行い、運動者の感情変化を明らかにする。そして、SNSにおける①「公」と「私」の重なり合いという運動の両面性と②共感に基づく「連帯」に焦点を当て、中国#MeToo運動における3つの代表的な事例を選出する。それらの事例の展開を考察しながら、運動者の感情の変容を追跡し、彼/彼女らの感情が運動の連帯に与えた影響を検討する。

本研究は以下5つの部分によって構成される。第1章ではまず一般的な感情に関する社会学理論を紹介し、それらの研究から得られた知見が持つ社会運動研究に対する意義を示す。次に、社会運動の感情研究の社会運動論における位置づけを説明し、社会運動における感情研究に関する先行研究を検討しながら、本研究が取り込むSNSで展開される社会運動における感情を考察する必要性を提示する。第2章ではソーシャルメディアにおける情動の公衆の生成、およびネットワーク化された社会運動についての先行研究を考察しながら、本研究に対するいくつかの示唆を示す。第3章では本研究の調査内容、方法、およびKH Coder 3を用いた内容分析の結果を示す。第4章ではKH Coder 3の分析結果と「連帯」という社会運動論でよく論じられてきた概念をめぐって、3つの代表的事例の展開と参加者の言説を考察し、各アクターが「連帯する/連帯しない」きっかけとその決定に基づく感情を表に持ち出す。第5章ではまず告発者と支持者が声をあげ、運動に関与するまでの感情変化のパターンを示す。次にSNSが有するアーキテクチャとルールがいかに関運動ペースを攪乱したのかについて第4章の事例を振りかえりながら説明する。最後に、中国#MeToo運動の最初段階に形成された連帯はSNSにおける注目、検閲、アンタゴニズムとそれらに生じた各アクターの感情変化によって崩壊したと結論する。